3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、平成27年度末に廃止された「地域医療システム学寄附講座」の後継として、平成28年4月1日に設置期間3年の講座として設置されました。その後、本講座のそれまでの実績を踏まえ、本県における医師の地域偏在の解消、地域医療の充実、地域医療に従事する医師育成のためには、引き続き取り組みの継続が必要との熊本県（寄付者）の判断から、平成31年4月及び令和4年4月にそれぞれ３年間の延長がなされており、令和５年度は3期目の中間年度となりました。

本講座は、設置目的でもある地域医療を担う医師の養成を目指して、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」、「総合診療医の育成」、「地域医療実践教育拠点の運営」など、より実践的な取り組みを進めて参りました。

令和5年度においても、熊本大学医学部医学科の学生（熊本県医師修学資金貸与学生を含む。）や若手医師に対して、卒前からの一貫した地域医療教育を通した地域医療マインドの涵養に取り組むとともに、今後、本県の地域医療への貢献が期待される総合診療専門医の育成に向けて、県内の公的病院等の連携を進めるに当たっての中心的な役割を担いました。また、総合診療専門医の育成のために県北及び県南地域に設置している教育拠点において、地域の医療機関に対する積極的な診療支援を行いました。

【主な活動内容】

Ⅰ　調査研究

Ⅱ　教育活動

・卒前教育（カリキュラム外）

・卒前教育（カリキュラム内）

・卒後教育

・専門資格取得後のキャリア支援

Ⅲ　教育拠点への支援

Ⅳ　地域医療支援

【スタッフ】

熊本大学病院　地域医療・総合診療実践学寄附講座

荒木　智　特任准教授／総合診療科

佐土原 道人　特任助教／総合診療科

北村　泰斗　特任助教／総合診療科

山口　香　事務補佐員

山並　美緒　事務補佐員

くまもと県北教育拠点（くまもと県北病院）

田宮　貞宏　総合診療科

小山　耕太　熊本大学非常勤講師／総合診療科

中村　孝典　特任助教／総合診療科

河浦教育拠点（天草市立河浦病院）

鶴田　真三　特任助教／総合診療科

熊本大学病院 総合診療科　医局員

武末 真希子　松田 圭史　平賀 円

久保崎 順子　空田 健一　永田 洋介

早川 香菜美

専攻医（熊本大学総合診療専門研修プログラム）

下地 徹　本田 宏介　松岡 隼平

西富 友哉　足立 瑛彦　田添 英典

2. 活動報告

(1) 調査研究

● 地域医療実習教育に関する調査研究

修学資金貸与による義務年限を有する学生の将来のキャリア支援と定着要因の解析のために、地域医療特別実習の教育的効果を見るためのアンケートを例年実施しています。結果は、令和5年(2023年)10月の世界家庭医機構カンファレンス(ＷＯＮＣＡ)で発表を行いました。

なお、令和5年(2023年度)の地域医療特別実習の結果については、令和6年(2024年)5月の米国総合内科学会で発表の予定であり、また、参加した学生も参加者の立場からの経験を令和6年(2024年)6月の日本プライマリ・ケア連合学会で発表予定です。

● 総合診療専門医普及に関する調査研究

本講座では、日本専門医機構の基本領域専門医である総合診療専門医の育成を担っています。また、医師の働き方改革の解決策の一つのモデルを米国のホスピタリスト(病院総合医)に求めており、米国のホスピタリスト(病院総合医)にインタビューしたデータを基に、日米の医療制度、労働形態の違いを質的に解析したものを、令和5年(2023年) 5 月に米国総合内科学会で発表を行いました。

総合診療専門医のアカデミックな活動の支援としてこれまで、令和元年(2019年)には兵庫医科大学臨床疫学共催で臨床研修ワークショップを、令和3年(2021年)には、研究倫理ワークショップを開催してきましたが、これらの活動の一環として、令和5年度(2023年度)から、ＡＭＥＤ(日本医療研究開発機構)の研究公正高度化モデル開発支援事業の「臨床研究者による活用を目指した臨床研究技能と研究公正の統合学修の実用化」の分担研究開発を行っています。

● 医療機関の勤務環境に関する調査研究

研修医が地域医療研修において困難を克己して安全な研修生活を送るためのキャリア支援につなげるために、研修医のレジリエンスと地域医療研修との関係について科研費により令和元年(2019年)から令和3年(2021年)までアンケート調査による縦断研究を行っており、現在論文化を進めています。

● 教育拠点での教育効果についての検証

熊本大学病院総合診療科、各教育拠点が、総合診療専門研修プログラムの基幹施設、連携施設という関係で専門研修プログラムを運用しています。また、指導教員と総合診療専攻医が初期臨床研修医、地域医療・総合診療に係る学生実習の指導も行っています。

くまもと県北教育拠点については、2名の総合診療専攻医が勤務し、令和3年(2021年)に設置された天草市立河浦病院は、令和3年(2021年)10月からは総合診療科の1名の専攻医が配属されています。令和5年度(2023年度)においても、レジデントデイなどの定期的な集まりなどにおいて、教育効果についてヒアリングし、プログラム管理委員会で諮問して、プログラムの教育効果の検証と改善に取り組みました。

(2) 教育活動

① 卒前教育(カリキュラム外)

● 修学資金貸与学生の支援

将来、地域の病院で勤務することとなる貸与学生に対して、一人一人の状況に応じた助言や個人の相談に対応するため、年度当初(6月)に、地域医療支援機構と連携して当寄附講座教員が、熊本県医師修学資金貸与学生35名(既卒者1名を含む)の面談を実施(県外大学在学の2名の貸与学生を除き、全員対面形式で実施)しました。

面談においては、生活状況や将来の希望等について聞き取り、各学生の状況に応じた生活面、学習面

等に関して指導、助言を行いました。特に6年生に対しては、将来のキャリアプラン等を聞き取り、進路について義務の履行とキャリア形成の両立に関して個別具体的なアドバイスを行いました。

● 地域医療ゼミ

地域医療ゼミは、熊本県医師修学資金貸与学生及び熊本県出身の自治医科大学医学部医学科医学生を主な対象に実施しており、令和5年度は11回開催しました。6月は「多職種連携」を学ぶために、熊本大学薬学部・大学院生命科学研究部臨床薬理学分野准教授の近藤悠希先生を講師に招き開催しました。10月は「コミュニケーション」をテーマに、まどかファミリークリニック院長の加藤光樹先生を外部講師として招聘し開催しました。11月は、令和5年度から開講した地域医療総合演習で学んでいる地域枠5年生が講師を担当し、「地域枠学生のキャリア形成」の一助となるワークショップを開催しました。12月は、自治医科大学の学生が担当し、大学間交流を深めるようオンライン上でグループに分かれて活発な意見交換がなされました。令和6年1月は熊本県医師会主催の医学生・研修医をサポートするための会とのジョイント開催となりました。内容は「医師のキャリアとワークライフバランス―ロールモデルを探そう！」と題して、熊本県内の女性医師の先生方にご講演いただきました。

● 夏季地域医療特別実習

地域医療特別実習は、熊本県医師修学資金を貸与されている学生及び熊本県出身自治医科大生を対象として毎年県内各地で開催しています。当実習は、これから地域医療に従事することが予定されている学生が地域の行政関係者及び医療・福祉関係者等に対する聞き取りを通して地域の問題点を探り出すとともに、自らが見聞して体験することで、地域を知り、地域との関係性を身近にする中で、地域医療に前向きに取り組んでいく意欲を醸成することを主な目的としています。

8月に一泊二日の日程で天草上島・御所浦地域において実施した夏季地域医療特別実習には、20名の貸与学生及び自治医科大生が参加しました。参加者を4つのグループに分け、2グループずつが湯島（上天草市）と御所浦島（天草市）にある診療所の見学、周辺地域のフィールドワークを行い、地域医療の現場を体感しました。また、上天草市役所では市の担当者から地域の保健・福祉等の現状や課題について、上天草総合病院では病院長から地域医療の現状や課題等について講話を聴講するとともに、病院内の見学に合わせて、隣接する看護専門学校の見学も行いました。実習を締めくくる発表会では、学生らが実習で学んだ成果等をグループごとに発表、意見交換等を行い、学生にとって地域医療の現場を多角的に学ぶ充実した実習となりました。

● 冬季地域医療特別実習

12月に一泊二日の日程で阿蘇地域において実施した冬季地域医療特別実習には、大学の試験等のために夏季地域医療特別実習に参加できなかった12名の貸与学生が参加しました。阿蘇市役所の担当者から阿蘇市における保健や介護の現状・課題について講話を聴講後、阿蘇医療センター、小国公立病院をはじめ、へき地の診療所や熊本地震の影響を受けた立野病院など6つの医療機関と2つの高齢者施設を訪問し、施設の見学や意見交換を行い、地域医療や福祉等の地域の厳しい現場を体感しました。各医療機関や施設では、高い志をもってそれぞれの職務に邁進されている病院長や施設長等から、自身の経験や思い等も交えた熱意のこもった講話があり、学生にとって多くの学びを得る充実した実習となりました。

② 卒前教育（カリキュラム内）

熊本大学医学部のカリキュラムとして、医学科4年次学生に対して総合診療学、医学科5年次学生に対して選択科目として地域医療総合演習、医学科5・6年次学生に対する特別臨床実習（地域医療）（総合診療科）を担当しました。

● 特別臨床実習（地域医療）

現在、5学年の6月から6学年の9月までの全15ターム（1タームは3週間）で実施（第1～13ターム必須、第14、15タームは選択）されている特別臨床実習において、当講座は、平成26年度から地域医療を提供しています。令和５年度は、第13タームまで本講座が担当し、14ターム以降並びに、新５年生の1タームからは、医学部連携教育センターが担当することとなりました。

● 特別臨床実習（総合診療科）

令和5年度の総合診療科の特別臨床実習は、大学病院、くまもと県北教育拠点及び河浦教育拠点の3か所で行いました。令和5年度は5年生、6年生合わせて、延べ44人の学生を受け入れ、臨床実習を実施しました。

● 地域医療総合演習

令和5年度からの新たな取り組みとして、5年生に対して選択科目である地域医療総合演習、全8コマを開講しました。6名の学生が履修登録をしました。地域医療総合演習では、地域医療に従事する際にもとめられる医療者教育を実践するための知識・能力の獲得を目的としています。6コマかけて、教育指導を実践するための基礎知識や準備を行いました。11月の地域医療ゼミでは実際に講師となって、ゼミ受講生に対して教育実践を行いました。今年度は、「キャリアプランニング」をテーマに設定して、参加者のキャリア形成を促進するように個人とグループワークを行いました。最後の1コマは、受講生の事前・事後アンケートの結果の考察とともに、教育実践の内省的振り返りをもとにしたカリキュラム評価を行いました。

● 令和5年度の地域医療総合演習の1年間の実施状況

年月日	内容	担当教員
4月13日（木）	教育計画書作成のための基礎知識	髙柳 宏史
5月11日（木）	事前アンケート作成 ＊5月18日　事前アンケート実施	髙柳 宏史
6 月8日（木）	事前アンケート結果分析・テーマ決定	髙柳 宏史
7 月13日（木）	教育方略についての基礎知識・役割分担・準備	髙柳 宏史
9 月14日（木）	教育評価についての基礎知識・役割分担・準備	髙柳 宏史
10月12日（木）	実施にむけての準備・事後アンケート作成	髙柳 宏史
11月16日（木）	地域医療ゼミで実施　事後アンケート実施	髙柳 宏史
12月14日（木）	カリキュラム評価 事後アンケート集計・分析・考察・振り返り	髙柳 宏史

● 総合診療学

４年次の学生に対して、全10コマの講義を下記のとおり実施しました。

● 令和5年度の総合診療学の講義の実施状況

日時	科目	内容	担当教員
4月4日	総合診療学概論１	総論	松井 邦彦
4月11日	総合診療学概論２	EBM、診療ガイドライン	荒木 智
4月18日	総合診療学概論３	臨床推論	佐土原 道人
4月25日	総合診療学概論４	身体診察	佐土原 道人
5月9日	総合診療学概論５	家庭医療学１	髙柳 宏史
5月16日	総合診療学概論６	家庭医療学２	髙柳 宏史
5月23日	総合診療学概論７	病院総合診療	小山 耕太
5月30日	総合診療学概論８	高齢者ケア、地域包括ケア	鶴田 真三
6月6日	臨床推論演習１	体重減少	北村 泰斗
6月13日	臨床推論演習２	倦怠感	中村 孝典

● その他の講義等

その他、以下の授業を担当しました。

・臨床実習入門医療面接（4学年）

・公衆衛生学（4学年）

③ 卒後教育

● 地域医療に従事する修学資金貸与医師への支援

地域医療支援機構と連携して、地域医療に従事する修学資金貸与医師60人全員について対面で面談を実施し、本人の専門医としてのキャリア形成と義務履行の両立が図られるように、一人一人の実状に沿ったアドバイスを行いました。

令和5年度の貸与医師の勤務先については、おおよそ地域の医療機関での勤務が始まる医師4年目以降の貸与医師41名中35名が知事指定病院での勤務となり、うち年度中途での勤務先変更も含めて18名が、第2、第3グループの病院等で勤務することとなりました。

● 初期臨床研修医に対する指導

熊大病院群初期臨床研修プログラムで総合診療科を選択した初期臨床研修医1人に対し、内科分野および外来研修の教育指導を行いました。

● 専攻医に対する指導

熊本大学総合診療専門研修プログラムでは、令和4年度に本プログラムを修了した専攻医1人が令和5年度の総合診療専門医の資格試験に合格しました。令和5年度においては、6名の専攻医がそれぞれの基幹施設および連携施設で勤務を行いました。本寄附講座においては、地域で必要とされている総合診療医の育成に向けて、後述の合同カンファレンスやレジデントデイ等の取り組みをはじめ、様々な機会を通じて専攻医に対して必要な指導を行いました。

【合同カンファレンス】

● 研修の支援・指導の充実を図るため、テレビ会議システムを活用した「合同Webカンファレンス」を4回開催し、総合診療に関する困難事例の情報共有や、専攻医の抱える症例の共有化を図るとともに、システムを活用した遠隔指導により、適宜必要な助言を行いました。また、同システムを通じて、専攻医等が経験した症例・事例の発表を各病院へ配信しました。

【レジデントデイの開催】

● 当寄附講座では、専攻医の研修修了要件であるポートフォリオ（経験省察験修記録）の作成指導なども行っており、4回のレジデントデイを開催し、専門研修の進捗状況の確認を図り、よりきめ細かい指導を行うとともに、プログラム修了に向けてさらに丁寧な指導に心がけました。

● 専門医資格取得後のキャリア支援

本講座では、専門医資格取得後も、熊本大学病院総合診療科として様々なキャリア支援を実施しています。大学病院という診療・教育・研究機関の特色を活かし、個別のニーズに合わせ、臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも含め、様々な研鑽を積むことができることが特徴で、総合診療専門医取得後の5年間は、指導医取得に向けてこれまでにも増して重要な時期であるとの考えのもと、様々な指導、支援を実施しています。

令和5年度においても、熊本県内に多数存在する連携機関の協力のもと、専門医資格取得後、変化する各人の様々なニーズに即し、総合診療領域外、あるいは関連する領域についての研修を支援しました。1名の専門研修修了者が、緩和ケアの研修を行いました。

また、本講座においては、教員が地域支援先でカンファレンスや相談に応じるほか、対象の医師に対して英語論文の執筆支援も行ってきました。

さらに、熊本大学の大学院へ進学し、医学博士の修得を目指す者への支援も実施。それまでの臨床経験の中で得た様々な疑問の解決を目指し、各人の興味に応じた臨床研究を推進し、学位の取得に向けての指導を行っています。令和4年度からは、社会人大学院学生として、3名が博士課程に在籍しています。

● 総合診療セミナーの開催

本講座では、若手医師に総合診療の魅力を伝えながら総合診療のプログラムを周知し、熊本大学病院の総合診療の知名度向上を図るとともに、熊本県内及び九州全域において総合診療医の連携強化を図ることを目的とした勉強会である「総合診療セミナー」を令和2年度から開催しています。

令和5年度は、総合診療に関心のある若手医師、学生等の総合診療への理解がより深まるよう、グランドラウンドも含めて、次のとおり開催しました。

【総合診療セミナー】

□ 9月20日「もう一度“ＤＮＡＲ”を勉強しなおそう！」
　講師：熊本大学病院地域診療・総合診療実践学寄附講座（くまもと県北教育拠点）
　　特任助教　中村孝典　先生

【総合診療グランドラウンド】

□ 10月19日「プライマリ・ケア外来での聴き方－Well-being迫る医療面接－」
　講師：まどかファミリークリニック　院長　加藤光樹　先生

□ 12月21日「アンゴラ共和国からの報告：総合診療医の軌跡」
　講師：外務省在アンゴラ日本大使館参事官兼医務官　高橋　理　先生

● 総合診療医育成のためのPR活動

令和3年3月に新たに設置された総合診療科について、総合診療科の活動状況等の紹介を通して、総合診療の魅力、必要性、重要性等を医療関係者のみならず広く一般に情報発信し、理解を深めてもらうため、総合診療科のホームページを新たに開設し、当寄附講座ホームページとリンクして、より広く関係者に総合診療科の活動をPRしました。

● 総合診療特別研修プログラムの提示

令和2年度、新しいキャリア支援策として、専門研修に進む卒後3年目以降の貸与医師等に対しては、専門研修プログラム従事前に知事指定病院の第2グループの病院で総合診療「特別研修プログラム」に参加して義務の償還を優先することを選択できる体制を構築。「熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム」の更新に当たって、4年度からキャリア支援策の一つとして同プログラムに掲載し、受け入れできる体制を作っています。

（3）教育拠点への支援

① 設置目的

地域医療に貢献できる優秀な医師の養成を円滑に行いつつ、地域における診療活動を通した教育・研究を推進することで熊本県内における地域医療の再生に資することを目的に地域医療・総合診療実践学寄附講座教育拠点を設置しています。

令和3年4月から河浦教育拠点を設置するとともに、「公立玉名中央病院」が組織を改編して「くまもと県北病院」となったことで、同年10月から玉名教育拠点に変えて新たに「くまもと県北教育拠点」を設置しました。それぞれの教育拠点には、当寄附講座から教員を配置して、地域の施設において求められる医療の提供を行いながら、専門研修医、初期臨床研修医、卒前の医学生に対する教育、さらに研究を実施する施設として、以下の役割を担っています。

② 役割

i　総合診療専門医の養成
ii　熊本大学病院の臨床研修協力型病院として臨床研修医の教育
iii　自治医科大卒医師（自治医）の指導・教育
iv　総診特別プログラムに従事する医師の指導
v　義務償還のために地域の施設で総合診療医として勤務する他の診療領域の修学資金貸与医師の指導
vi　医学部学生の教育（臨床実習の受入れ）
vii　病院での臨床に即した研究、地域医療のあり方、教育や人材育成に関する研究、調査

③ 教育活動

・くまもと県北教育拠点では、熊本大学医学部学生の総合診療科の特別臨床実習、地域医療特別実習の受入れを行うとともに、基幹型臨床研修施設としての臨床研修医の受入れと共に熊本大学病院等の協力医療施設として臨床研修医の受入れも行いました。
・また、熊本大学病院総合診療専門研修プログラムの専攻医3人が、総合診療科の指導医の下に研修に従事しました。
・河浦教育拠点については、現在本講座の教員1人が常駐し、病院での日々の診療に従事しつつ、総合診療特別実習の学生を受け入れ、実習指導を担当しました。また、総合診療科の専攻医2人が、講座教員の指導を受けながら実地の業務に従事しました。
・天草教育拠点については、令和4年（2022年）に寄附講座教員が退職した後、後任の特任助教がいない状況が続いています。

（4）地域医療の支援

下表のとおり、河浦及び県北の教育拠点においては、それぞれ本講座から派遣された医師が、その他の医師が不足している地域の病院については講座所属の医師が、各病院に対する診療支援を行いました。

● **令和5年度における地域医療支援実績**

医師名	支援先医療機関	支援内容
松井　邦彦	くまもと県北病院	非常勤　通年（週1回）
荒木　智	荒尾市立有明医療センター	非常勤　通年（週1回）
	天草中央総合病院	非常勤　通年（週1回）
佐土原　道人	小国公立病院	非常勤　通年（週1回）
	阿蘇医療センター	非常勤　通年（週1回）
北村　泰斗	くまもと県北病院	非常勤　通年（週1回）
	そよう病院	非常勤　通年（週1回）
鶴田　真三	河浦病院	常勤
中村　孝典	くまもと県北病院	常勤

※令和5年10月、荒尾市民病院から有明医療センターへ名称変更

このほか、熊本県地域医療支援機構／地域医療支援センターと連携し、本講座及びセンターに所属の医師が、大学病院において総合診療科の外来診療に対応するとともに、救急外来診療等も担当しました。

● **大学病院　総合診療外来担当医**

月	火	水	木	金
荒木　智	松井　邦彦	髙柳　宏史	佐土原　道人	北村　泰斗

4 教育拠点

くまもと県北教育拠点

1. 活動概要

くまもと県北教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、2021年3月、玉名地域保健医療センターと合併し、新たに「くまもと県北病院　くまもと県北教育拠点」として移転し、2024年3月現在、指導医4名、総合診療専門医研修の専攻医2名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供を継続しています。

2023年卒後臨床研修プログラム研修医（基幹型1年次：4名、2年次：8名、協力型：計1名）特別臨場実習（クリニカル・クラークシップ）の「総合診療科」の受け入れも積極的に行っております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療に取り組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行っています。9年経過した現在までに、診療面については救急車不応受率4%を下回り、救急車受け入れ台数も3400台/年以上を維持（いずれも県北地域最高の成績）しております。結果、2023年度も基幹型研修医は比較的高いマッチ率を維持しております。

教育面については、タイ国のメーファールアン大学医学部との教育協力協定を更新し、日本では経験し難いCross border community medicine（国境を越えた地域医療）の研修を当院研修医が国際医療の枠組みで実践可能となりました。

研究面については、学会発表はもとより、くまもと県北病院卒後臨床研修医初となる、筆頭著者での英文誌へのケースレポート執筆も達成しました。くまもと県北教育拠点として、臨床・教育・研究を更に発展的に展開することが期待されます。言うまでもありませんが、当拠点は地域医療において円滑に発展し、行政並びに玉名郡市医師会とも引き続き協力し、常に前進する次第です。

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	3	メーファールアン大学医学部　教育協力協定更新
	3～18	同大学医学部生（5名）地域医療実習実施
	14, 28	研修医症例カンファレンス
	28	研修医振り返り
5	1, 2	研修医振り返り
	12～26	研修医症例カンファレンス
	13	マイレジナビ@「熊本城ホール」
6	1, 2	研修医振り返り
	9	研修医症例カンファレンス
7	7, 14, 21	研修医症例カンファレンス
	13	感染症講演会（大路 剛 先生、海老澤 先生）
	26	研修医振り返り
8	4, 11	研修医症例カンファレンス
	23, 25	研修医振り返り
	30	第3回熊本県Resident Web Seminar
9	8, 15, 22, 29	研修医症例カンファレンス
	16	有明地区研修医合同カンファレンス
10	6, 13, 20	研修医症例カンファレンス
	19, 20	研修医振り返り
11	10, 17	研修医症例カンファレンス
	16, 17	研修医振り返り
12	8	研修医症例カンファレンス
	21	膠原病内科、病理診断科合同カンファレンス
1	12, 26	研修医症例カンファレンス
	12, 26	阿蘇医療センター総合診療科合同症例カンファレンス
	10, 11, 12	研修医振り返り
2	9	阿蘇医療センター総合診療科合同症例カンファレンス
	9, 16	研修医症例カンファレンス
3	1, 15, 22	研修医症例カンファレンス
	8, 22	阿蘇医療センター総合診療科合同症例カンファレンス
	未定	初期臨床研研修　修了式

3. 活動報告

(1) 教育活動

● 特別臨床実習

熊本大学医学部の1ターム3週間の特別臨床実習(総合診療科 クリニカル・クラークシップ)をくまもと県北教育拠点で受け入れています。本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエスチョンを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとし、学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としております。

また、教育協力協定を締結しているメーファールアン大学医学部学生5名の地域医療研修も受け入れ、日本の医療制度における地域医療を学ぶ機会を提供しました。この取り組みについては、実習生から医師としての役割のみならず、地域全体の健康維持の視点で、様々な役割を果たす職種としての新たな視野をえるいい機会になったとの評価を得ております。このことについては、2023年10月に開催されたWONCA(世界家庭医機構)国際学会で報告しております。

一方で、くまもと県北教育拠点責任者で総合診療科部長の小山先生が、教育拠点での成果を基に、2023年4月から熊本県医療政策課に熊本県へき地医療支援機構 専任担当官として着任されました。これに伴い、教育対象を県北地域から熊本県全土に広げ、特に自治医科大学医学部学生及び卒業医師の教育支援に取り組んでおります。

今後、熊本県地域医療発展のため、多くの視点、広い視野、俯瞰して見る/診る視点の高さを追求し続け、多くの医学生が満足できる地域での医学教育の環境、質の向上に努めたいと思います。

くまもと県北教育拠点における週間スケジュール

1-2週	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー		
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー		プレゼン研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or 緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修			皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

3週	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー		
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー		プレゼン研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or 緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修		TMEC	皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

プライマリケアレクチャー	熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー
モーニングレクチャー	臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
リエゾンカンファ	総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、艦長調整を多職種で検討するカンファレンス
TMEC	クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会

「ゆっくりだけど、確実に前進」

メーファールアン大学医学部 教育協力協定調印

メーファールアン大学医学部 地域医療実習生

● 初期臨床研修（総合診療科研修）

2023年度はくまもと県北病院の基幹型研修プログラムに4名の研修医がマッチし、基幹型2年次8名と国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として1名、計14名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れました。くまもと県北教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

結果、2023年度の基幹型卒後臨床研修医は6名マッチを達成しました。

● モーニングレクチャー

モーニングレクチャーとは…

・各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。写真は、眼科医による眼底鏡の使い方指導の風景です。

・指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。

● 講演会・セミナー

コロナ感染症が5類感染症に社会的には移行され、多くの学会が対面式に切り替わりました。これに伴い、「日本病院総合診療医学会九州地方会」「有明地区研修医合同カンファレンス」「日本プライマリ・ケア連合学会九州地方会」が現地開催され、初期研修2年次の水野航佑先生が症例発表を行いました。

● 総合診療専門医（専攻医）研修

くまもと県北教育拠点およびくまもと県北病院では、熊本大学病院　総合診療専門医研修プログラムの「総合診療Ⅱ」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しております。2023年4月から、本プログラム2期生で、家庭医療専門医の中村孝典先生が教育医長として着任されました。プログラム出身者ならではの専攻医目線の研修を実践が可能となり、新たな取り組みを模索しております。

教育拠点として、常に前進し続け、地域医療を担う新たな人材育成を今後も担っていく所存です。昨今話題の医師の働き方改革にも対応し、専攻医の身体的・精神的負担を軽減するシステムの構築と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています。その様な中、2024年度からは1名の新しい専攻医を迎えることになり、今後の更なる発展が期待されます。

(2) 診療

くまもと県北病院で、総合診療科での外来および入院診療を行っています。また、他診療科からの相談（院内コンサルテーション）や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、くまもと県北教育拠点に常駐する指導医5名（内科専門医・指導医、プ

ライマリケア認定医・指導医、病院総合診療認定医・指導医、リウマチ専門医、総合診療専門医、家庭医療専門医、血液内科専門医）の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

くまもと県北病院　総合診療科外来担当医表

月	火	水	木	金
佐藤	中村	小山	小山	中村
田添	足立	田添	足立	田添
			松井	大里
佐藤（午後）		小山（午後）	小山（午後）	佐藤（午後）

（3）年間診療報告

玉名拠点開設から8年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、平日の救急外来を担っています。コロナ禍で受診控えの受診患者数が減少する中でも、入院患者数は徐々に増加傾向にあります。

また、救急診療では受入件数もくまもと県北地域最多を維持しており、不応需率も低い値で推移しています。

2023年度　研修医　全13名
くまもと県北病院基幹型：12名（1年次：4名、　2年次：8名）
熊本医療センター：1名（2年次）

河浦教育拠点

1. 活動概要

河浦教育拠点は2021年4月に設置されました。過疎地域の小規模病院におけるプライマリケアタイプの教育拠点です。地域医療を行っていく中で、実践的なレジデント教育を行っており、現在もレジデント1名が研鑽を積んでいます。また、熊本大学医学部よりクリクラ学生を受け入れています。

2. 活動報告

(1) 教育活動

● 学生

熊本大学の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)「地域医療」「総合診療」枠で1ターム3週間の実習を受け入れています。

「総合診療」枠も、僻地のプライマリケアとしての実習を行っています。今年度から本格的に、院外での実習をスタートしました。社会福祉協議会、地域包括支援センターでの実習を取り入れることで、医療だけでなく介護、福祉との連携を学んでもらっており、おおむね学生からも好評です。また、地域の方との交流として、時期が合えば農作業や釣りなども経験してもらいました。

● 初期研修医地域医療研修

赤十字熊本病院より1か月ずつ3名の研修医が派遣されました。2次医療機関とは違う、限られた資源の中での外来診療、入院診療、そして在宅診療を経験してもらい、それぞれにフィールドの違いによる仕事の視野の違いを感じてもらいました。また、この地域だからこその歴史遺産見学や陶器見学、釣りなども体験してもらっています。

● 後期研修

6月末でレジデントが当院での研修を終え、7月より新たなレジデントが赴任しました。年度途中からの赴任のため、なかなか外来患者数が少ない状態でスタートしましたが、来年度も在籍予定であるため、徐々に外来患者が増えてきており、外来研修がより充実していくと思います。病棟診療、訪問診療もじゅうぶんに研修しています。また、院内外での多職種教育や地域活動、地域住民向けのヘルスプロモーション活動なども積極的に取り組んでもらっています。

(2) 診療

月	火	水	木	金
鶴田 (初診+再診)	鶴田 (初診+再診)	鶴田 (初診+再診)	下地 (初診+再診)	下地 (初診+再診)

※訪問診療はチームで分担　火・水・金

(3) 年間診療報告

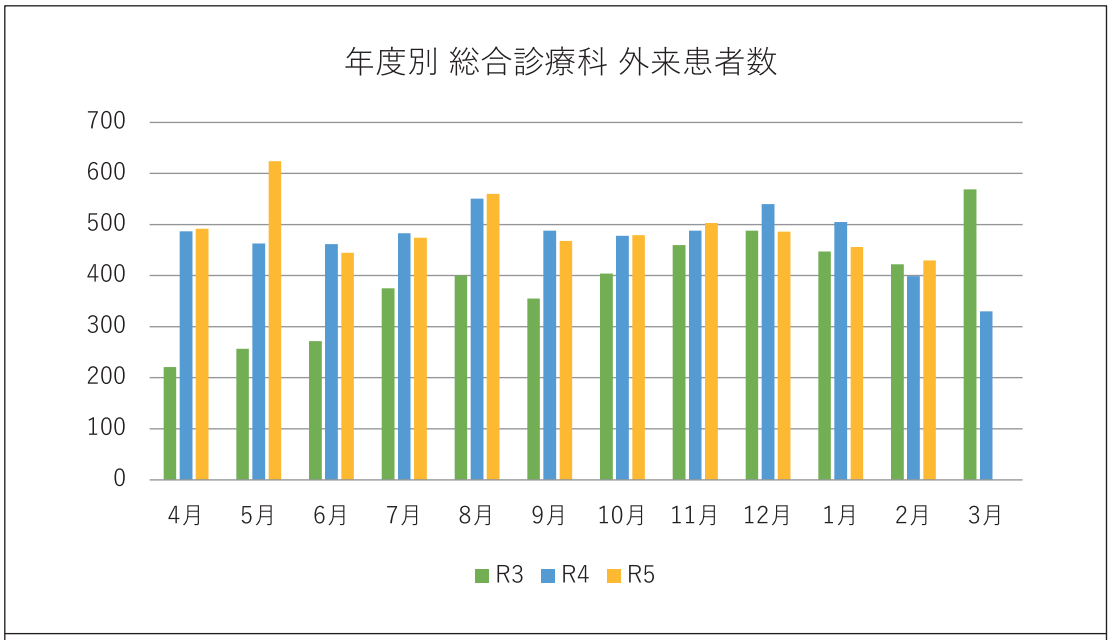
総合診療科としての外来患者数は、昨年からすると微増しています。病院全体では患者数が減っていることから、地域への貢献度は上がっていると考えられます。

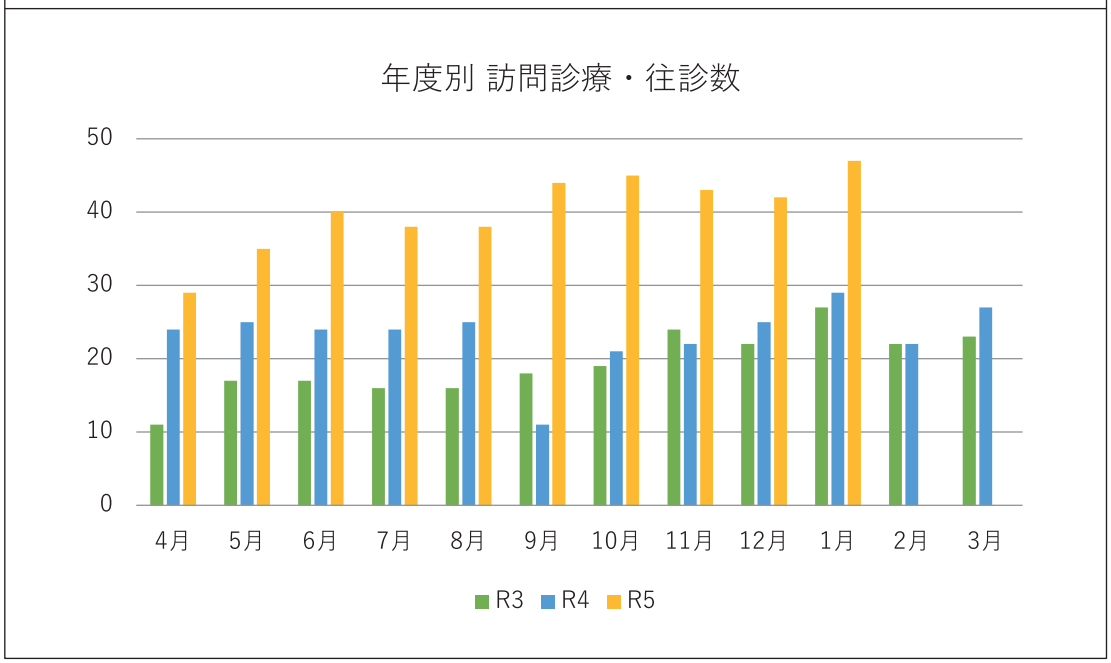
レジデントは年度途中での赴任となったため、定期通院患者数がなかなか伸び悩んでいますが、今春の他科の医師の転勤等により、2024年度は慢性期患者の定期通院を増やすことが出来ると見込まれ、よ

り研修が充実するものと考えます。

また、天草市高浜町にある巡回診療所についても、2024年度から前任の医師から引き継ぎ当科レジデントがメインで関わってもらうことになりました。無医地区の外来診療のみならず、診療所の運営、地域や行政との関わり等も学ぶ絶好の機会だと期待しています。場合によっては、今後、ローテートするレジデントにとって、この巡回診療が一番の河浦病院での魅力になるかもしれません。

このほか、訪問診療数は大幅に増加しており、徐々に地域への周知が広まり、ここ1年で依頼が増えてきたためと考えています。総合診療科として、地域のニーズに答えることができている事例だと思います。





(4) セミナー・勉強会

住民向け講座が昨年より増加しており、レジデントも講師等で大いに関わってもらっています。また、院内多職種教育にレジデントが積極的に関わっており、ACLS等の勉強会を積極的に開催してきました。

その他、河浦・天草地区での地域活動を行っているしきちの会のメンバーとして鶴田、下地とも日々活動しており、地域の医療・介護・福祉の多職種向けの勉強会も行いました。

＜住民向け講座＞

6月26日	久留ひまわり講話
9月13日	上津留老人会講話
10月4日	﨑津コミセン講話
10月18日	こつこつ会講話
11月8日	倉田いきいき会講話
11月15日	白木河内老人会講話
11月29日	笑〇クラブ講話
12月13日	2025会講話
3月14日	下津留老人会講話
3月20日	天草郡市医師会住民公開講座

＜地域祭りへの参加＞

7月16日	虫追い祭
3月30日	一町田さくら祭

＜院内外勉強会（運営または講師等を行ったもの）＞

7月18日	国診協若手の会勉強会「人生会議」
9月27日	院内多職種勉強会「BLS」
10月13日	循環器科合同勉強会「河浦病院と循環器科との連携」
10月25日	院内多職種勉強会「ACLS①」
11月13日	国診協若手の会勉強会「マルチモビディティ」
12月20日	院内多職種勉強会「ACLS②」
1月20日	のさりの島天草の地域医療教育セミナー 「天草における地域医療での医師養成の現状と課題」
1月24日	院内多職種勉強会「院内トリアージ」
1月24日	しきちの会勉強会「社会的処方」など
2月5日	他院との合同勉強会「僻地での在宅医療」

天草郡市医師会住民公開講座

地域の祭に参加

院内勉強会の様子

地域住民向け講話

学生実習の様子

5 熊本県医師修学資金貸与学生からの報告

1. 地域医療ゼミ

(1) 概要

現在、熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は34名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。

今年度は新型コロナウイルスの制限も緩和され、コロナ前のように、対面での開催が中心となりましたが、オンラインの利点を生かしたハイブリッドによる開催も行いました。特に第6回では、グランドラウンドとのジョイント企画として、学外より講師の先生をお招きし、ハイブリッド開催にしたことにより、全国から多くの医師や専攻医の方にもご参加頂き、大変充実した回となりました。また、今年度は4年振りの夏季地域医療特別実習も実施されたため、第4回のゼミでは、「夏季地域医療特別実習説明会」として、夏季実習についての事前説明や事前学習、実習地区別による班員の顔合わせ等を行ったことにより、実習当日は円滑なコミュニケーションのなか、楽しく有意義な実習を行うことができました。

1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
8 人	2 人	5 人	5 人	6 人	8 人

(2) 活動内容

●第1回地域医療ゼミ（2023年4月20日／対面にて開催）

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生8名の紹介と、県庁医療政策課の方から熊本県医師修学資金貸与制度及びキャリア形成プログラムについての説明を行いました。また幹事学年が企画したレクレーションを実施し、学年を超えて親睦を深めることが出来ました。

●第 2 回地域医療ゼミ（2023年5月18日／ハイブリッドにて開催）

シネメデュケーションとして、新しく制作した熊本大学病院総合診療科のホームページ用動画を視聴し、熊医生、自治医生それぞれに感じた総合診療医の印象、動画の感想を発表し、意見交換を行いました。

●第 3 回地域医療ゼミ（2023年6月15日／対面にて開催）

多職種連携企画として、熊本大学 大学院生命科学研究部 臨床薬理学分野 近藤悠希先生をお招きし、「地域医療から考える腎機能を考量した医薬品適正使用」と題してご講演頂きました。

●第４回地域医療ゼミ（2023年7月20日／オンラインにて開催）

8月16日・17日の夏季地域医療特別実習について、地域医療・総合診療実践学寄附講座・地域医療支援センターの教職員より事前説明を行いました。参加学生たちは、夏季実習のスケジュール及び訪問地区別の班分けを確認し、その後、ブレイクアウトルームを利用して、班毎に自己紹介、連絡先の交換を行いました。

●第５回地域医療ゼミ（2023年9月21日／対面にて開催）

今回はシネメデュケーションとして、ジョニー・デップ製作・主演「MINAMATA-ミナマタ-」を鑑賞。鑑賞後、２つのグループに分かれて、個々の感想を発表し、グループディスカッションを行いました。

●第６回地域医療ゼミ（2023年10月19日／ハイブリッドにて開催）

今回は第19回熊本大学グランドラウンドとのジョイント企画として、福岡県小郡市のまどかファミリークリニック加藤光樹院長をお招きし、「プライマリ・ケア外来での聴き方－Well-beingに迫る医療面接－」と題してご講演頂きました。講演は、学生が参加してのロールプレイングを挟みながらお話し頂き、大変インタラクティブなゼミとなりました。

●第７回地域医療ゼミ（2023年11月16日／対面にて開催）

今年度から始まった5年次の選択カリキュラム「地域医療総合演習」で学んできたことを基に、履修した5年生による教育セッションを行いました。自己分析、個人ワーク、グループディスカッションなどを行い、参加学生のこれからのキャリア形成に有意義なゼミとなりました。

●第８回地域医療ゼミ（2023年12月21日／オンラインにて開催）

自治医科大生の企画により、「自治医大生・熊大地域枠生の卒後キャリア形成」をテーマ開催しました。

自治医科大学の紹介後、自治医大もしくは熊大地域枠を選んだ理由と専門医を取るタイミング・取りたい科についてのグループディスカッションを行い、その後、各グループで出た意見を発表し、参加学生全員で意見の共有を行いました。

●第9回 地域医療ゼミ（2024年1月29日／対面にて開催）

熊本県医師会が主催し、熊大病院地域医療支援センターと日本医師会の共催で開催された「令和5年度医学生・研修医等をサポートするための会セミナー」とのジョイント企画としておこなわれました。今回のテーマは、「医師のキャリアとワークライフバランス－ロールモデルを探そう！－」で、3人の女性医師から講演いただきました。また、講演後、参加者でグループワークを行い、活発な意見交換が行われました。

●第10回地域医療ゼミ（2024年2月15日／対面にて開催）

「制度とキャリア」をテーマにゼミを開催しました。最初に当センターの教員から、専門医制度の内容や女性医師のライフイベントに係る義務年限の取り扱いについてなど、クイズ形式による説明があり、次に県医療政策課から令和6年3月更新予定のキャリア形成プログラムについての詳細な説明が行われました。また、今年度は女性医師キャリア支援センターより、実際に着衣したマタニティ白衣の紹介など、より具体的に制度やサポートについての案内がありました。

●第11回地域医療ゼミ（2024年3月22日／対面にて開催）

今年度最後となったゼミは、1年の締め括りとして、夏季・冬季地域医療特別実習報告や今年度から医学科5年生のカリキュラムとなった「地域医療総合演習」についての報告が行われました。その後皆勤賞、功労賞の表彰、新たな幹事学年(4年生)代表の紹介や4月からの地域医療ゼミの実施計画についてなど、来年度に向けた地域医療ゼミの説明も行われました。

その後、4年ぶりに追いコンも開催され、卒業生の挨拶、花束贈呈等、6年生の卒業を祝し、大いに盛り上がった思い出に残る1日となりました。

2. 地域医療特別実習

(1) 概要

地域医療特別実習は、これまで「夏季地域医療特別実習」(以下「夏季実習」)と表し、熊本県医師修学資金の貸与学生及び熊本県出身の自治医科大学医学部生を対象に、熊本市外の地域を訪れ【地域を知る】ことに視点を置いた企画・構成で実習を行い、例年、2泊3日の日程で地域を訪問し、医療機関等の見学型実習及びフィールドワークをメインとして、実際に地域を“見て・聞いて・感じる”ことで、参加学生が多方面から広く地域を知ることができるような内容を心がけ取り組んでまいりました。

例年、夏季にのみ実施していた本実習ですが、今年度は夏季実習に加えて、大学のカリキュラム等で夏季実習に参加できなかった学生を対象に「冬季地域医療特別実習」(以下「冬季実習」)を行いました。

(2) 夏季地域医療特別実習

夏季実習は、天草上島地域にて1泊2日で実施しました。上天草市、天草市、湯島、御所浦などの自治体や医療機関、地域住民の方など、多くの皆さまのご理解とご協力のもとでの充実した実習となりました。湯島、御所浦の両離島でのフィールドワークをはじめ、グループでの活動が中心となり、グループ毎の全体発表も行いました。

● 開催日程及び実習地域

日程：2023年8月16日(水)～8月17日(木)

地域：天草上島地域(上天草市湯島、天草市御所浦)

● 参加学生

熊本県医師修学資金貸与学生(熊本大学医学部)　9名

自治医科大学医学部生(熊本県出身者)　11名

● 実習スケジュール

8月16日（水）

8:00	～	8:15	集合・受付　(熊本大学病院)
8:30	～	10:00	移動
10:15	～	11:25	講話　(上天草市役所 松島庁舎　保健センター)
11:30	～	11:40	移動
11:40	～	12:30	ランチミーティング　(リゾラテラス天草)
12:40	～		フィールドワーク　(湯島、御所浦)
16:15	～	17:15	病院等見学　(上天草総合病院、上天草看護専門学校)
17:15	～	17:30	移動
18:00	～	19:30	懇談会・意見交換会　(よしやホテルきらら停)
20:00	～	22:00	全体発表準備
22:00	～		宿泊

8月17日（木）

7:00	～		朝食　(よしやホテルきらら停)
8:20			集合
8:30	～	8:45	移動
9:00	～	10:45	全体発表・考察　(上天草看護専門学校)
10:45	～	11:10	会場撤収作業・休憩
11:20	～	11:55	移動
12:00	～	13:00	ランチミーティング　(島観光ホテル岬亭)
13:10	～	15:10	移動
15:15			事務連絡・解散　(熊本大学病院)

(3) 冬季地域医療特別実習

例年、地域医療特別実習は夏季のみ行っておりましたが、今年度は、大学のカリキュラム等で夏季実習に参加できなかった学生を対象に、1泊2日の日程で阿蘇地域にて冬季実習を行いました。

冬季実習は、阿蘇市、産山村、小国町、南阿蘇村において、関係自治体をはじめ関係機関の多くの皆さまのご理解とご協力のもと、3つの診療所を含む6つの医療機関、2つの高齢者施設を訪問しての充実した実習となりました。

● 開催日程及び実習地域

日程：2023年12月25日（月）～ 12月26日（火）

地域：阿蘇地域（阿蘇市、小国町、産山村、南阿蘇村）

● 参加学生

熊本県医師修学資金貸与学生　12名

● 実習スケジュール

12月25日（月）

8:00	～	8:15	集合・受付　（熊本大学病院）
8:30	～	9:50	移動
10:00	～	10:45	講話　（阿蘇市役所）
10:50	～	11:30	見学・グループワーク　（阿蘇医療センター）
11:35	～	11:40	移動
11:45	～	12:15	見学　（特別養護老人ホームみやま荘）
12:20	～	12:25	移動
12:45	～	13:35	ランチミーティング　（道の駅 波野　神楽苑）
13:45	～	13:55	移動
14:00	～	14:30	見学・意見交換　（波野診療所）
14:35	～	14:55	移動
15:00	～	15:30	見学・意見交換　（産山村診療所）
15:35	～	16:25	移動
16:30	～	17:20	講話　（小国公立病院）
17:25	～	17:45	移動
17:50	～	18:35	準備・休憩　（旅館　白水荘）
18:40	～	18:55	移動
19:00	～	20:30	懇談会・意見交換会　（食事処　三軒家）
20:30	～	20:50	移動
20:55			休憩・就寝　（旅館　白水荘）

12月26日（火）

7:00	～	8:00	朝食
8:25			集合
8:30	～	8:50	移動
9:00	～	9:30	見学　（小国公立病院）
9:30	～	10:00	見学　（おぐに老人保健施設）
10:05	～	10:15	移動
10:20	～	11:15	見学　（北里柴三郎記念館）
11:20	～	11:25	移動
11:30	～	12:00	見学　（おぐにサテライト診療所）
12:05	～	12:15	移動
12:20	～	13:10	ランチミーティング　（道の駅 阿蘇）
13:15	～	13:55	移動
14:00	～	14:30	休憩
14:35	～	14:55	移動
15:00	～	15:40	講話　（阿蘇立野病院）
15:50	～	16:40	移動
16:45			解散　（熊本大学病院）

3. 令和５年度　卒業生の声

● 星野 朱音（熊本大学医学部医学科６年）

私は6年間の学生生活を通して本当にさまざまな経験をすることができました。この6年間は勉強を通して医学を学ぶことはもちろん、実習を通して実際の医療について学び、学外活動を通して社会の中でのさまざまな人の役割などについても学ぶことができました。

特に印象深かったことは臨床実習や病院見学を通してそれぞれの病院に役割が分担され、雰囲気や患者さんの層が違うことを実際に感じたことです。大学病院ではより高度な医療を必要とする患者さんが多く、また、地域医療ではより患者さんの生活環境に近い所で急性期から慢性期まで幅広い患者さんをみる必要があり、私がこれから働く上で、どのような環境でどのような人の力になっていきたいのか、より具体的に考えるとてもいいきっかけになりました。

加えて、卒業試験、国家試験を通してこれまで学んだ知識の総復習をしたと同時に、その膨大な知識量に医者は一生勉強が必要という言葉を痛感しました。試験勉強を通して知識を身につけることはもちろん重要ですが、友達と知識を出し合って考えること、自分の勉強方法を見つけること、忍耐強くコツコツ努力を続けることの重要さを再確認することができました。

これから私は医師として働いていきますが、この6年間で学んだことを忘れず、活かしていくことで自分の目指す医師像に近づいていきたいと思います。最後になりますが、六年間お世話になった先生方、地域医療支援センターの皆様、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

● 岩井 秋子（熊本大学医学部医学科6年）

試験が多い、実習がきつい、勉強が難しい、などという声も聞きますが、生まれておよそ四半世紀が過ぎるまでモラトリアムを得られるという点を考慮すれば、医学部生は恵まれていると思います。そのうえ地域枠生は経済的な援助を頂き、さらには先生方や優しいスタッフの皆様に日々気にかけてもらい、夏季実習では熊本県内の色々な地域に連れて行ってもらえるわけです。そんな自由で素晴らしい6年間、私は1年生から再試常連で、ポリクリでは不勉強がすぎると追加レポートを課され、卒留の危機に陥りました。でもそんなのは些細なことです。なんとか進級し無事国家試験を合格した今、これから先の長い医師人生の中で勉強をし続けるための足がかりはできました。

大学は専門的な知識を得るだけでなく、本質的なことを考える時間をもらう場所であると思います。「何事も楽しんで、苦労を苦労と思わない。反省はしても、後悔はしない」

この一生をほんの少しでも他人様の役に立つものにするため、そして十分に謳歌するための極意です。大学時代を経て自分の芯となる部分を言葉にできたことが、この6年間の意味だったと思います。とても素敵で幸せな日々でした。

話は変わりますが、先日ふとした事から高校卒業時に自分が書いた合格体験記を目にしました。6年前の私は「大学は長い人生の休憩時間」と言っていました。いよいよその休憩時間が終わるわけですが、これまでの人生24年間、両親をはじめたくさんの方々に面倒をみてもらいながら、十分に遊ばせてもらったと思います。

大人になる準備は整いました。これからは有用な社会の歯車となるべく頑張っていきますので、正しい道を歩いているか見守っていただけたらと思います。6年間ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。

● 冨士登 璃子（熊本大学医学部医学科6年）

国家試験の合格発表の日に自分の受験番号を見つけた時、6年前にも同じように受験番号を見つけた時の情景が鮮明に浮かび上がり、あれから6年が経ったものだと思うと、時の流れの早さに驚きます。医学部に合格した喜びは、一生忘れられないものとなっています。6年間はあっという間でしたが、それぞれの学年を振り返ると、講義や試験、実習に加えてCBTやOSCE、IGEなどの節目となる大きな試験があり、一つ乗り越えたと思うと、また一つの壁が立ちはだかり、それらに挑んでいるうちに学年が上がり、気

づけば卒業まできたような感覚があります。そうした中でも、基礎医学から臨床科目、実習を経るにつれて、学んできたものが様々なところで繋がっていき、全く分からなかったものが少しずつ理解できるようになると面白いと思うようになりました。卒業試験や国家試験の前には、その膨大な範囲を目の前にして、何度も心が挫けそうになりましたが、自分の根底にこの6年間を通して感じた医学は面白いという気持ちがあったからこそ、立ち向かうことができたと思っています。そして勉学だけでなく、部活動でも尊敬する先輩方や頼もしい後輩達、信頼できる同期に恵まれ、忙しいながらも楽しい思い出の多い学生生活だったと思います。

地域医療ゼミでは、夏季実習に一番思い出があります。実際に地域に伺い、医療の現状や住民の方々との交流、文化や名産品を通してその地域について学ぶことができるため、帰る頃にはその地域の魅力をたくさん知ることができ、この地域に住んでみたい、そして医療に少しでも貢献したいと思いながら実習を終えていました。それに加え、先輩や後輩の皆さんと交流もできるため、同じ志を持った方々と縦のつながりができることは、部活動で得られるものとはまた違った、地域枠ならではのとてもありがたいものであると思います。昨年の夏に4年ぶりに開催されるとのことでしたので、6年生でしたが許可をいただき、参加させていただきました。やはりとても充実した時間であり、楽しかった実習のおかげでその後の卒業試験も頑張ることができました。

その他にも毎月のゼミも楽しみの一つであり、先生方やスタッフの皆様がいつも笑顔で迎えてくださり、とてもあたたかい場所でした。6年間支えていただきました、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方をはじめ、地域医療支援センターの皆様、並びに県の医療政策課の皆様に心より感謝申し上げます。ようやく医師のスタートに経ち、何も分からない状態ですが、地域に貢献できる医師になるために精一杯精進してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

● 中村 水紀（熊本大学医学部医学科6年）

地域枠として入学してから6年間、地域医療ゼミや夏季地域医療実習など様々な行事に参加し、多くのことを学ぶことができた。私は1度だけしか参加できなかったが、夏季地域医療実習は特に印象に残っている。私のグループは津奈木町を訪ねて、介護施設や役場で職員さんのお話を聞いたり、四季彩でモノレールに乗ったりして、とても楽しい思い出になった。中でも保健師さんのお話が特に印象に残っている。それは、津奈木では高血圧の患者さんが多い。それは住民に高齢の方が多いこともあるが、海が近く海産物を摂取する機会が多いことも原因の一つかもしれない。というお話だ。当時1年生だった私は地域医療がどんなことを求められているのか、よく分かっていなかった。しかしお話を聞いて、その地域の特色を把握しておくことは地域住民の健康問題を解決する上でとても重要なことだと知った。夏季実習は、実際にその地域を訪ねて、自分の目で現場を見て、地元の方とお話しすることで地域医療を知るきっかけとなった。

他にも印象に残っているのはCOCODEの取材で総合診療科の中村先生とお話しした時のことだ。そこではわからないことはわからないと患者さんに正直に伝え、他の専門の先生に頼ることの大切さを学んだ。私は「わからない」という言葉は患者さんに不安を与えてしまうのではないかと思っていた。しかし、中途半端な知識でその場を取り繕うよりも、わからないことは正直に伝え、自分で調べたり他の先生に相談したりすることで、いち早く解決につなげることが、患者さんにとって誠実な対応だという先生の話を聞いてとても納得した。これから医師として働く上で、よくわからない症例に直面することは多々あると思う。そんな時にこの取材でのお話を思い出して患者さんに誠実な対応をしていきたい。

この6年間、たくさんのことを学んだ。これから様々な地域で医療を行うことになると思うが、どの地域でもこれまで学んだことを活かし、地域の方々の健康を守るお手伝いをしていきたい。

● 坂本　萌（熊本大学医学部医学科6年）

熊本大学医学部医学科に地域枠生として入学し、あっという間に六年の月日が流れました。右も左もわからずに入学しましたが地域枠の先輩方が地域枠のゼミではどんなことをするのか、試験勉強はどのようにするのかなど優しく教えてくださり、とても安心したのを覚えています。地域枠学生の活動として、

月に一度のゼミがありましたがシネメデュケーションや地域で実際に働いていらっしゃる医師の方々や他職種の方の講演などを通して地域医療とは何なのか、女性医師の働き方、チーム医療の進め方など様々なことを学ぶことができました。またゼミでは学生主体に活動させていただく機会も多くあり先生方や職員の皆様のサポートのもとグループワークやレクリエーションも交えながら自由に楽しく活動させていただくことができ、他学年や他大学の学生との繋がりも得ることができたと思っています。

六年間を振り返ってみると様々なことを経験させていただきましたが一番思い出深いのはやはり夏期実習です。一年生の時は水俣に、二年生の時は球磨郡に行かせていただきましたが、実際に見て触れて、その地域で生活する方や実際に医療に携わっている方々から直接お話を聞かせていただくことで、ひとくちに地域医療といえどもその現状は地域によって千差万別であることを実感し、教科書を見ているだけではわからないことを知ることができ自分が将来熊本の地域でどのように働いていきたいかを具体的に考えるきっかけになりました。二年生の終わりごろから新型コロナウイルスが流行し病院実習ができなくなるなど学校生活の中で様々なことが制限されるようになり不安も多くありましたが面談やゼミをオンラインで行うなど先生方や先輩方が工夫をしてくださったことでコロナ禍でも私たちは安心して充実した学校生活を送ることができたと思っています。これから研修医として働くことになりますが地域枠学生として学んだことを実践しながら二年間の研修を実りあるものにしていきたいです。

● 森嶋 純平（熊本大学医学部医学科6年）

卒業が目前に迫り新生活への準備に追われている今日この頃ですが、入学したのがつい最近のように思い出されます。私は最後の一般枠の学生として医師修学資金貸与制度に参加させていただきました。入学してすぐのガイダンスでこの制度を耳にした時、生まれ故郷である熊本の地域医療に携わりたいという私の思いにマッチした制度であると感じすぐに手続きをしました。幼い頃から思い描く将来の自分は、いつも決まって地域医療に従事する医師としての自分の姿でした。この確固たる将来像はときに自分を奮い立たせるものとしてときに挫けそうになったときの心の支えとして、多くの場面で私を助けてくれました。ついにこの姿に近づく第一歩が歩み出せると思うと筆舌に尽くし難い気持ちでいっぱいです。

この6年は本当にあっという間でしたが、今までの人生の中でも特に密度の高い期間でした。途中でコロナ禍に見舞われ、課外活動はおろか大学への登校すらできなくなりましたが、それでもその時分でしかできない学びや経験は数多くありました。どれか一つの経験を選び取って文章にするには多すぎるほど多くのことを学ばせていただきましたが、同級生、先輩・後輩、座学でお世話になった教員の先生方、実習でお世話になった臨床の先生方、実習で担当させていただいた患者の方々、その他大勢の私に関わってくださった全ての方々があってこその今の私であると改めて強く思います。こんなにも多くの方に支えられていることに対する感謝や何事にも謙虚に誠実に向き合うことの大事さを実感できた6年でした。特にゼミ等に際して、私をご支援くださった地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方・スタッフの方々並びに熊本県医療政策課の皆様には大変お世話になりました。これからも多くの場面でお世話になることと思いますが、どうかよろしくお願い申し上げます。

新年度からは荒尾市立有明医療センターで初期臨床研修医としてお世話になります。まだまだ未熟でありますが、医師として熊本のために尽力できるよう精一杯研鑽を積んでいく所存です。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。